令和 8 年度　定期作況報告

〈令和 8 年 10 月 20 日現在〉

地方独立行政法人北海道立総合研究機構
農業研究本部　道南農業試験場

1. 気象経過

9 月下旬：平年と比較して、平均気温は平年並、最高気温は 0.5℃高く、最低気温は平年並であった。降水量は 17.0mm で平年の 39%、日照時間は 73.6 時間で同 142%だった。

10 月上旬：平年と比較して、平均気温は 0.8℃低く、最高気温は平年並、最低気温は 1.7℃低かった。降水量は 17.5mm で平年の 35%、日照時間は 67.4 時間で同 151%だった。

10 月中旬：平年と比較して、平均気温は 2.1℃高く、最高気温は 1.9℃高く、最低気温は 2.0℃高かった。降水量は 36.0mm で平年の 133%、日照時間は 65.3 時間で同 120%だった。

以上、平均気温は 0.5℃高く、最高気温は 0.8℃高く、最低気温は平年並であった。降水量は 70.5mm で平年の 58%、日照時間は 206.3 時間で同 137%だった(表 1)。

表 1　気象表

調査項目	9月下旬			10月上旬			10月中旬			平均または合計		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
平均気温(℃)	17.5	17.2	0.3	14.4	15.2	▲ 0.8	13.8	11.7	2.1	15.2	14.7	0.5
最高気温(℃)	23.0	22.5	0.5	20.2	20.4	▲ 0.2	19.4	17.5	1.9	20.9	20.1	0.8
最低気温(℃)	12.2	12.1	0.1	8.3	10.0	▲ 1.7	8.2	6.2	2.0	9.6	9.4	0.2
降水量　(mm)	17.0	43.9	▲ 26.9	17.5	50.6	▲ 33.1	36.0	27.0	9.0	70.5	121.5	▲ 51.0
日照時間(hr)	73.6	51.7	21.9	67.4	44.5	22.9	65.3	54.2	11.1	206.3	150.4	55.9

注 1) 観測値は北斗市のアメダスデータによる。平年値は前 10 か年の平均値である。
注 2) 比較の▲印は「低」または「少」を示す。

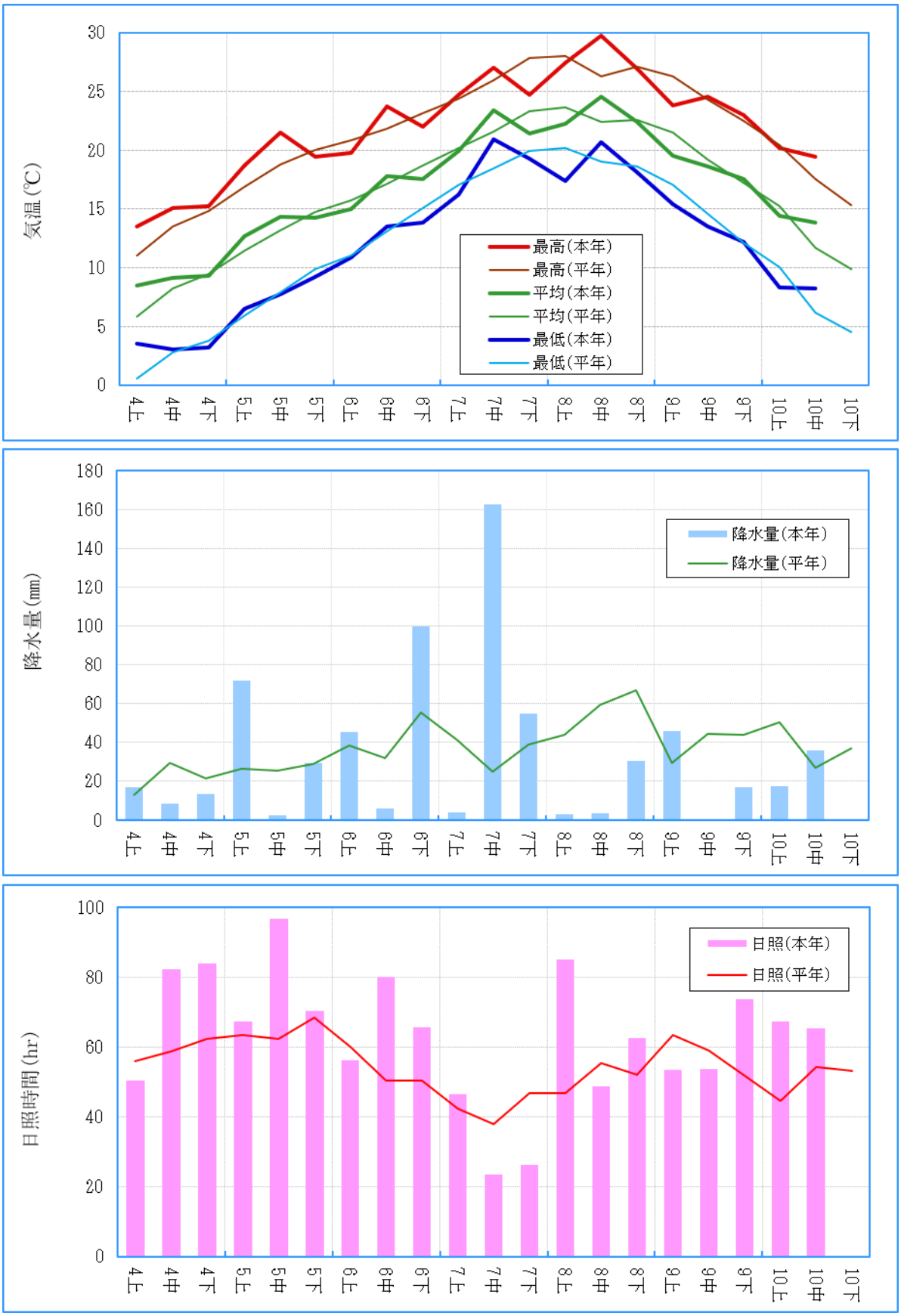


図１　気温、降水量及び日照時間の平年との比較（令和８年、北斗市）

2. 作況（水稲）

10 月 20 日：やや良

事　由：「ふっくりんこ」は、精玄米千粒重は平年並、屑米歩合は平年より 3.2 ポイント低く、精玄米重は 60.4kg/a で平年に比べて 106％と多かった。「ななつぼし」は、精玄米千粒重は平年より 0.6g 重く、屑米歩合は平年より 4.4 ポイント低く、精玄米重は 62.9kg/a で平年に比べて 104％とやや多かった（表 2)。平年に対する精玄米重比の 2 品種平均値は 105％であった。㎡当稔実籾数は「ふっくりんこ」で少なく、「ななつぼし」は平年並であったが、2 品種ともに登熟歩合が高く、屑米歩合が低かったため、精玄米重はやや多くなった。

以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

9 月 20 日：やや良

事　由：8 月下旬は平年並の気温で経過し、登熟日数は「ふっくりんこ」で平年より 3 日短く、「ななつぼし」で 2 日短かった。成熟期は「ふっくりんこ」で平年より 5 日、「ななつぼし」で 4 日早かった。倒伏やなびきは見られなかった。「ふっくりんこ」は、穂数は多かったが、7 月中～下旬の寡照のため、一穂籾数は平年の 82％とかなり少なく、稔実歩合は平年の 103％とやや高かったことから、㎡当稔実籾数は平年の 90％とかなり少なかった。登熟期間は概ね多照であったことから、登熟歩合は平年より 14.2 ポイント高く、㎡当登熟籾数は平年の 100％と平年並であった。

「ななつぼし」は、穂数はやや多かったが、一穂籾数は平年の 95％とやや少なく、稔実歩合は平年の 102％であることから、㎡当稔実籾数は平年の 100％と平年並であった。登熟歩合は平年よりの 14.8 ポイント高く、㎡当登熟籾数は平年の 113％とかなり多かった（表 2)。

以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

8 月 20 日：平年並

事　由：7 月下旬、8 月上旬は低温で推移したが、8 月中旬は高温に推移したため、登熟は進み、籾の黄熟化が進んだ。そのため本田生育調査と合わせて、稈長等の成熟期調査も行った。止葉葉数は平年並で、草丈は短かった。茎数は「ふっくりんこ」で平年の 106％と多く、「ななつぼし」は平年の 102％と平年並であった。稈長は両品種ともに平年より短かった。穂長は両品種ともに平年より短く、一穂籾数が少ないことが考えられた。穂数は「ふっくりんこ」は平年の 106％と多く、「ななつぼし」は平年の 103％とやや多かった（表 2)。

以上のことから、現在の作況は「平年並」である。

7 月 20 日：平年並

事　由：6 月下旬は低温であり生育は停滞したが、7 月上旬は平年並の気温で、7 月中旬はかなり高温であったため、生育は回復した。幼穂形成期および止葉期は、両品種ともに平年より 1 日早かった。出穂期は、両品種ともに平年より 2 日早かった。両品種ともに葉数は平年並みで、草丈も平年並みであった。茎数は「ふっくりんこ」は平年よりやや多く、「ななつぼし」は平年並みであった（表 2)。

以上のことから、現在の作況は「平年並」である。

6 月 20 日：やや不良

事　由：5 月下旬～6 月上旬は低温で推移し、6 月 5 日～10 日の間は 15℃以下の低温であったため、葉の黄化や生育の停滞が見られた。6 月中旬は高温で多照に推移し、生育はやや回復したが、平年と比較して、草丈は 2 品種ともに低く、葉数は 2 品種ともに少なかった。茎数は「ふっくりんこ」では平年並であったが、「ななつぼし」は少なかった(表 2)。

以上のことから、現在の作況は「やや不良」である。

5 月 20 日：やや良

事　由：播種は平年より 1 日遅い 4 月 23 日に行った。出芽までの日数は平年並で、出芽期は 4 月 28 日であった。育苗期間中、4 月下旬は平年並の気温で多照、5 月上旬は高温でやや多照、5 月中旬は高温で多照であり、全体としてやや高温で多照であった。移植は平年並の 5 月 20 日に行った。移植時の苗の形質において、平年と比較して、草丈は 2 品種ともに長く、葉数は 2 品種ともに多く、茎数は 2 品種ともに多かった。地上部乾物重は 2 品種ともに平年を上回った。苗の充実度を表す地上部乾物重/草丈の値は「ふっくりんこ」は重く、「ななつぼし」は平年並であった(表 2)。

以上のことから、現在の作況は「やや良」である。

注)本作況は、道南農業試験場における平年値に対する水稲の生育良否に基づいたものであり、渡島・檜山を代表するものではありません。

表２　　水稲の生育

	品種名		ふっくりんこ			ななつぼし		
	項目	/年次	本年	平年	比較	本年	平年	比較
生育期節	播種期	（月日）	4.23	4.22	1	4.23	4.22	1
	出芽期	（月日）	4.28	4.27	1	4.28	4.27	1
	移植期	（月日）	5.20	5.20	0	5.20	5.20	0
	幼穂形成期	（月日）	6.29	6.30	▲ 1	6.25	6.26	▲ 1
	止葉期	（月日）	7.13	7.14	▲ 1	7.11	7.12	▲ 1
	出穂期	（月日）	7.20	7.22	▲ 2	7.18	7.20	▲ 2
	成熟期	（月日）	9.03	9.08	▲ 5	8.30	9.03	▲ 4
	穂揃日数	（日）	3	5	▲ 2	3	5	▲ 2
	登熟日数	（日）	45	48	▲ 3	43	45	▲ 2
	生育日数	（日）	133	139	▲ 6	129	133	▲ 4
移植時	草丈	（cm）	15.9	14.6	1.3	15.3	14.5	0.8
	葉数	（枚）	3.8	3.5	0.3	3.8	3.5	0.3
	茎数	（本/個体）	1.90	1.45	0.45	1.27	1.11	0.16
	地上部乾物重	（g/100本）	3.54	3.07	0.47	3.24	3.11	0.13
	地上部乾物重／草丈		0.22	0.20	0.02	0.21	0.21	0.00
本田生育	草丈	6月20日	31.7	34.1	▲ 2.4	32.5	35.3	▲ 2.8
	（cm）	7月20日	85.5	84.3	1.2	86.5	86.9	▲ 0.4
		8月20日	90.1	92.6	▲ 2.5	88.2	92.9	▲ 4.7
	葉数	6月20日	7.3	7.8	▲ 0.5	7.2	7.9	▲ 0.7
	（枚）	7月20日	10.4	10.5	▲ 0.1	10.4	10.5	▲ 0.1
		8月20日	10.4	10.5	▲ 0.1	10.4	10.5	▲ 0.1
	止葉葉数	（枚）	10.4	10.5	▲ 0.1	10.4	10.5	▲ 0.1
	茎数	6月20日	547	535	12	432	464	▲ 32
	（本/㎡）	7月20日	770	739	31	635	645	▲ 10
		8月20日	732	689	43	635	620	15
成熟期	稈長	（cm）	74.6	77.6	▲ 3.0	72.3	75.4	▲ 3.1
	穂長	（cm）	16.2	16.8	▲ 0.6	15.6	17.1	▲ 1.5
	穂数	（本/㎡）	729	683	46	634	613	21
収量構成要素	一穂籾数	（粒）	39.9	48.5	▲ 8.6	49.6	52.3	▲ 2.7
	㎡当籾数	（×1000）	29.0	33.2	▲ 4.2	31.4	32.2	▲ 0.8
	稔実歩合	（%）	97.0	94.2	2.8	97.5	95.7	1.8
	㎡当稔実籾数	（×1000）	28.2	31.3	▲ 3.1	30.7	30.8	▲ 0.1
	同上平年比		90	100	▲ 10	100	100	0
	登熟歩合	（%）	94.6	80.4	14.2	93.2	78.4	14.8
	㎡当登熟籾数	（×1000）	26.7	26.6	0.1	28.6	25.2	3.4
	籾摺歩合	（%）	75.5	72.1	3.4	80.8	75.9	4.9
	屑米重	（kg/ａ）	4.6	6.9	▲ 2.3	1.5	4.3	▲ 2.8
	屑米歩合	（%）	7.7	10.9	▲ 3.2	2.3	6.7	▲ 4.4
	精玄米千粒重	（g）	22.9	22.9	0.0	22.4	21.8	0.6
収量	わら重	（kg/ａ）	67.5	62.0	5.5	61.2	61.1	0.1
	精籾重	（kg/ａ）	80.0	78.9	1.1	77.8	79.7	▲ 1.9
	精玄米重	（kg/ａ）	60.4	56.9	3.5	62.9	60.4	2.5
	収量平年比	（%）	106	100	6	104	100	4
	玄米検査等級	（等）	2上			1		

注1）平年値は前7年間の令和4年（2022年、最豊年）、平成31年・令和元年（2019年、最凶年）を除く5年の平均値を用いた。
注2）苗は中苗紙筒、栽植密度は25.3株/㎡（33cm×12cm）、1株3本植え。
注3）本田にはN、P_2O_5、K_2O成分をそれぞれ7.5、9.1、6.5（kg/10ａ）施用した。
注4）篩目は1.90㎜を使用し、精玄米重、千粒重とも水分15.0%に補正した。
注5）登熟歩合は比重1.06の塩水で調査した。
注6）比較の▲印は「減」または「早」を示す。